

女性活躍促進を通じたIT人材育成と 地域課題解決に資する IoT活用サービス創出に向けた検討

株式会社NTTドコモ中国支社

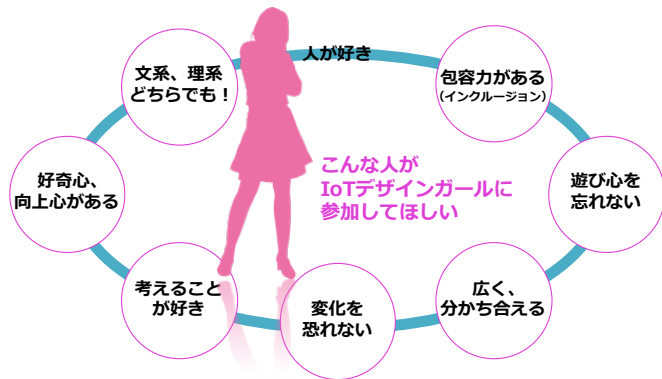
同研究会は2018年2月のIoTデザインガールin広島の特典開催をきっかけに、2018年9月から人材育成、有機的な地域人脈ネットワークの構築等を目的として、約半年間の活動を実施してきた。

本研究期間においては、広島が地方本格開催初となる「IoTデザインガールプロジェクト」が実施された。

IoTデザインガールプロジェクト in広島

本プロジェクトでは、「インプット」と「アウトプット」の二つに分けて活動を行った。「インプット」とは、IoT、経済、デザイン思考などの第一線で活躍する有識者、IoTによる新たな価値を提供している事業者からの、最新技術の動向や社会課題についての講演。そして、「アウトプット」とは、「インプット」を受けて参加者が広島県が抱える社会課題をテーマに、その解決に向けたソリューションを自らデザイン・実現に向けた検討を行うワークショップを行うというもの。

最終回では「アウトプット」の集大成としてソリューション企画の発表・審査が行われる。今回は「アウトプット」の目標として、「ひろしまサンドボックス」へ公募できるレベルを目指すことを掲げた。



最終審査会までには4回のインプットが行われ、参加者35名は7チームに分かれてそれぞれのテーマに関するアウトプットを検討した。

	主な登壇者 (インプット)	グループワーク
第一回 10月29日 (月)	●前田 香織氏 (広島市立大学大学院 教授) ●渡辺 今日子氏 (慶應義塾大学大学院 特任助教)	・チームビルド ・テーマ検討
第二回 12月6日 (木)	●湯崎 英彦氏 (広島県知事) ●柴藤 稔氏 (大阪大学 教授) ●牛来 千鶴氏 (株式会社ソラサービス 代表取締役社長) ●秦 利宏氏 (一般社団法人としま柑橘倶楽部 代表理事) ●武田 洋之氏 (株式会社エネルギア・コミュニケーションズ)	・テーマ確定 ・案件検討
もくもくタイム 1月8日 (火)	チーム作業、有識者、サポーターからの助言	
第三回 1月22日 (火)	●柳川 範之氏 (東京大学 教授) ●廣海 緑里氏 (株式会社インテック) ●内海 良夫氏 (株式会社 データホライゾン 代表取締役)	・中間発表
第四回 2月18日 (月)	●相原 玲二氏 (広島大学 副学長 (情報担当)) ●森川 博之氏 (東京大学大学院 教授)	・最終発表会・審査

チーム名	発表テーマ・概要
つるんガールズ	『Opportunity ～そこに愛はあるのか?～』 共働き子育てを楽しく支援するスマホアプリサービスの提案
DPガールズ	安心な暮らしづくり～防災・減災～ 県としての統一防災アプリ (スマホ対応) の提案
チーム (仮) (Hiroshima防災ガール)	「Hiroshima防災ガール」による、土砂災害危険度ワーストワンの広島県でスマート避難を提案、民間企業をまきこんだ、若手防災リーダー育成の提案
Monday Five	「IoTで院内学級の生徒に体験の共有を！」 VR等による、校外学習 (遠足、修学旅行、工場見学) 体験の提供、環境による教育差分の低減の提案
へむに～	「ほっこりスポットソリューション」～豊かな地域～ 広島のいいところ、好きなお店が見える、センサー等から収集したデータから快適度の可視化ソリューションの提案
相武紗希	「セレンディビティ」～偶然の出会いを求めて～ 広島来訪者の満足度を高めるために、SNS情報から得られる偶然の出会いを観光客に提供 (アプリ) の提案
思いっきり未来	「AIAI傘」 雨の日も楽しいんじゃけえ、広島」 雨の日でも楽しく安全に観光できるスマート傘と、傘からの収集データの活用提案

参加者の満足度97% 企画事業化の可能性も。

本事業における参加者の満足度は高く、参加者が今後の本業に生かしていく可能性などを感じたようである。また事業全体としての成果としては、ソリューション企画の事業化の可能性、参加者の「熱意」「パッション」のアピール、女性の共感力とパワーが社会課題解決に活用できたことなどが挙げられる。

今後は本プロジェクトを地域の象徴的な取り組み且つ継続的な活動にするための運営体制の確立、地元企業の参加拡大、優良ソリューション企画の事業化検討の仕組みといったものを課題として本事業をより有意義なものにすべく進めていく予定である。

以上